あつぎ観光ボランティアガイド協会ニュース

下川入・スポーツ広場
（撮影：小林会員）

令和５年 10 月号 Vol. 234
（2023 年）

発行：令和５年 10 月９日

あつぎ観光ボランティアガイド協会
ホームページ　http://atugikanvola.sakura.ne.jp
メールアドレス　atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者　会長　田頭 文昭　　編集担当者　澤田 正弘

≪恩曽川ハイキング「秋を探して」≫

行事区分：企画ガイド（ハイキング）
日　　時：９月 30 日（土）９：30～15：00
場　　所：恩曽川沿い
（夢未市～専念寺～本照寺～三島神社～本禅寺～あつぎつつじの丘公園）
参 加 者：一般３名、会員８名

恩曽川沿いの田圃で

今回は、市の広報に募集記事が載らなかったため、ホームページや口コミの募集によりお客様３名、会員８名の変則的な企画ガイドとなりました。

夢未市を出て恩曽川の右岸を歩き、地蔵橋親水広場で、ミーティングと準備運動を実施中に、霧雨が降ってきました。少し不安になりましたが、準備運動を終え、歩き始めるとすぐ雨はやみ、曇天で気温が抑えられた中でのハイキング開始となりました。子供たちが釣りをしている横を進み、Ｙ 会員の植物の解説を聞きながら専念寺へ。温水の地名の由来となった門前の池の伝説を聞き、寺内に入り専念寺の焼印の入った瓦せんべいをいただき、薬師堂や本堂に上り拝観させてもらいました。

温水橋では、橋の欄干にある金属板を順番にたたくと童謡「夕焼け小焼け」の演奏ができます。新人のＡ会員が演奏を披露すると、お客様も続いて演奏し楽しみました。川沿いの曼殊沙華の里に曼殊沙華の赤い花が咲き、堤防にも曼殊沙華が咲いています。恩曽川の両側は田んぼや畑が続く農村の風景です。稲を刈り干してある田、まだ刈入れのすんでいない田、休耕田なのに昨年取りこぼれたもみから生えた稲が点々と育っている田とさまざまです。農業に詳しいＡ会員は衰退する日本農業の現状を訴えました。

高坪橋親水広場の手前でＳ会員が１０月１日のインボイス制度導入のために、今日閉店を迎える小売店があると紹介。お客様はじめ皆行きたいというので、Ｔ 酒店へ立ち寄りました。既に大半の商品が売切れ、空棚が目立っていましたが、お茶や梅酒を買いました。

高坪橋親水広場、ゴム堰（ゴム引布製起伏堰）を経て本照寺へ。境内の大王松の前で Ｙ 会員からお客様へ大王松の松ぼっくりをプレゼント。大王松の松ぼっくりは長さ１５～２

５cm にもなるので、皆びっくりしていました。この頃雲の切れ間から日差しがさすようになり、暑さが気になってきます。

三島神社では、境内に沢山のぎんなんが落ちていて、袋のある人は神社の人の許可を得て、お土産に。私もレジ袋に入れて持ち帰りましたが、帰りのバスの中でにおいが漏れないかひやひやしました。三島神社と毛利氏発祥の地についての説明が終わると神社の人が補足説明してくださり、三島神社の扁額が立て直し前の古い神社のものであることや三島神社にあったとされる毛利氏館の発掘調査のことなどを伺うことができました。

本禅寺本堂前

本禅寺では、神奈川県指定重要文化財の本堂にあげていただき、井上五川の描いた天井画や欄間の天女、迦陵頻伽等の画を真近で拝見できました。

養豚場の傍では、和田傳と厚木の養豚場の説明があり、和田傳の作品で映画化された「いわし雲」に話が及ぶと、お客様のなかにこの映画をご覧になった方がいて大いに盛り上がりました。そして、ゴールのつつじの丘公園に到着。お客様との距離が今までになく近く感じるガイドでした。若い新人ガイドのＡ会員と、全行程を通じて沿道の植物の解説をしてくれたＹ会員の活躍が光る１日でした。　（清田 邦男記）

≪新編相模風土記稿輪読の会案内≫

行事区分：依頼ガイド　注 1）
日　　時：10 月２日（月）12：30～14：30
場　　所：荻野山中陣屋跡～飯山観音～烏山藩厚木役所跡
参 加 者：一般 14 名、会員２名

暑かった残暑からやっと秋の気候に入った 10 月２日に、小田原の「新編相模国風土記稿輪読の会」様の依頼を受け市内の３ケ所をガイドしました。新編相模風土記稿輪読の会の野外研修の催しで、午前中は戦国時代に北条と武田が戦った三増合戦の遺跡を訪ね、午後から厚木を訪問、小田原藩大久保氏に連枝の荻野山中藩陣屋跡から飯山観音と烏山藩厚木役所跡の見学スケジュールで依頼されました。

最初、荻野山中藩陣屋跡のガイドの要望でしたが、同じ江戸時代の小田原藩主大久保家の分家にあたる烏山藩厚木役所跡も追加、あわせて厚木の名所である「飯山観音」を加えて３か所を提案してガイドを行いました。いつもの企画ガイドで配付する資料（小冊子）と写真と絵図を用意してガイドしました。

荻野山中藩陣屋では、荻野山中藩の歴史と山中陣屋への移転理由、陣屋跡の見取り図や建物配置の説明と幕末にあった荻野山中陣屋焼打ち事件の概要を説明しました。特に、陣屋の絵図面を見てもらい説明すると、陣屋内の御殿の場所や建物のあった場所・また土塁のある場所等の質問があり、陣屋の概要に興味を持たれている方が多いと感じました。

飯山観音・観音堂前

飯山観音では、坂東三十三観音の六番札所の説明から、仁王門（山門）からかながわの名木１００選の「イヌマキ」県指定重要文化財の「撞鐘」のガイドを行い、最後に「観音堂」をガイドし

ました。ただ観音堂の工事が行われていて残念ながら堂内の見学は出来ませんでした。事前の確認や情報確認が出来ず反省と今後のガイド前の確認が重要と思いました。

烏山藩厚木役所跡では、飯山観音から市内に向かう道路の渋滞があり、当初予定のスケジュールが大巾に遅れてしまいガイドは短縮して説明しました。下野国烏山藩が厚木に役所を構えた理由、何故厚木に決めたのかの理由の説明(烏山藩主大久保常春が老中に栄進し、相模国内で加増を受け領地を治める為に役所を置いたが最適地が厚木だった事）また、烏山藩の歴史や統治時代のエピソード（2000 両の上納金献納）や明治維新後の役所の変遷についてガイドしました。

※今回の依頼ガイドを受けての感想

①荻野山中藩も烏山藩厚木役所とも江戸時代の建物や遺構は無いため、資料(小冊子)や絵図での説明は必要、特に参加された方の反応は良かった。

②当日のスケジュールは 12:30～14:30 の予定であったが、説明時間及び移動時間含め３か所は厳しい状況であった。

③企画ガイドと同様に、事前の下見が必要と感じた。説明時間、移動時間、案内先の事前情報を確認して計画すべきだった。　（田頭 記）

注 1）依頼ガイド：他団体からの要請に基づき、その都度実施する観光ガイド

≪2023 年度入会の会員紹介≫

本年度になって２名の方が入会されました。協会ニュース用に自己紹介をして頂きましたので掲載します。　（編集担当）

吉成 真彦

はじめまして！今年の６月に入会しました 19 歳、大学２年の吉成です。私は生まれも育ちも厚木市で幼少期からあつぎと共に育ってきました。しかし未だあつぎの魅力について知らないことばかりです。もっと厚木市のことを知りたい！と思い、このあつぎ観光ボランティアガイド協会に入会させて頂きました。こういった形で厚木市をアピールできることを大変うれしく思います。

私は父親の影響で小さい頃からよく山登り(大山、安達太良山、磐梯山など)をしていました。そのため歩くことが大好きです。皆様とハイキングできるのを楽しみにしております！また先輩方にも多くのことを学び、たくさんあつぎのことを知りたいです。まだまだ未熟者ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。

有澤 優太

初めまして。有澤優太と申します。私が、このボランティア活動に入会したのは、元々歴史やハイキングに興味があり、特に中高時代は、部員と共に毎日昆虫を取るために、山を巡ったことがあります。その時の仲間とともに目標の地点まで目指すためにともに協力する楽しさや経験をもとに、参加する人たちに知ってもらいたいと思い入会しました。また、本厚木は、今は特に覚えてはいませんが江戸時代中期には宿屋がたくさんあり栄えていたり、毛利家の発祥の地があったり、上杉謙信が長尾姓から上杉姓に変えるきっかけに

なった人がいたりと、意外と歴史的に有名なことに絡んだところが多く、それらの魅力も伝えるように頑張りたいと思っております。

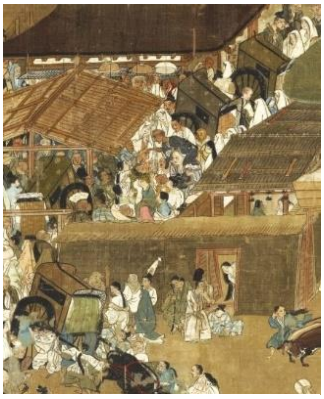
会員投稿 ----------

《 厚木の時宗（２回目　時宗の特徴） 》　　石川 豊

時宗独特の三大行儀である≪御賦算（ごふさん）≫≪遊行（ゆぎょう）≫≪踊り念仏≫について解説します。

1、御賦算

この念仏札は、遊行上人が全国を歩かれ、各地で集まった人々に一枚ずつ配られました。このことを賦算といいます。わかりやすく言えば、「お札くばり」のことで賦は「配る」、算は「札」の意味です。時宗の一遍上人は、その生涯に二百五十万一千人余人にこの念仏札を配られたと国宝「一遍聖絵」に記録されています。


四条京極京都釈迦堂での賦算

この念仏札は、お念仏を唱えれば、阿弥陀仏の本願に乗じて西方極楽世界に往生できるという安心の念仏札です。念仏札には、「南無阿弥陀　仏、決定往生六十万人」と刷られています。この「決定往生六十万人」とは、六十万人の人々に念仏札を配ることを願い、ついにはすべての人々（一切衆生）に配ることを念願されたことに由来します。

縦８センチ、横２センチの紙片「南無阿弥陀仏」と上部に、下部には「決定往生」「六十万人」二行に割書きされ、「南無阿弥陀仏」という名号によって、すべてのひとは救われ（決定）、浄土に往生できる百万遍唱えても証拠はない、札は吹けば飛ぶような紙片であっても念仏に縁を結んだことを証明する物的証拠となり、民衆は現生利益を得られ、極楽往生できると信じたのでは。札は呪符であり、往生を保証する、極楽行きの切符でした。

〈補足〉

面白いのは、この札（念仏札）は一遍上人が直接手渡すところに意味があり、本人以外が渡しては意味がない（極楽札ではなくなる？）とのことです。だから、一遍の周りに群がっているわけです！大行列です！確かに、私も遊行寺の初賦算では、ご住職様おひとりから、手渡しで念仏札を頂きました。専念寺さん、瑠璃光寺さんからも同様の話を聞きました。郵送不可ですね！（笑）　この念仏札の有効期限は今年いっぱいでしょうか。来年、また 1 月の初賦算で頂かねばならないのか、遊行寺で聞くのを忘れました！考えるに、念仏札は 1 回だけ頂くものだと思います。ちなみに、毎年１月 11 日この念仏札を刷り始めることを≪お札切り≫と言います。

2、遊行

遊行と言う一般的な意味は「布教、礼拝そのものを目的としながら目的地もなく、縁にまかせて歩き続ける」です。しかし、一遍上人にとっての遊行は「捨聖」たる意味にもありました。「捨てる」ことに徹し、念仏こそが救いである。現世は苦しい、悲しい事があ

り、財産あればもめる、家族があっても仲良いわけでもない。衣食住、すなわち財産、家族等これらを捨てつくせば心のやすらぎとなる。不安の要素がなくなるということです。一所不在、一定の住地を求めず、寺も作らない、尼僧同行でした。

「遊行は布教で特に目的地がなく」と述べましたが

① 一遍上人は自身の祖先河野一族の弔い目的もあったと思われます。

曾祖父	河野通清	訪問地	松山	粟井坂
祖父	河野通信	〃	奥州	江刺
叔父	河野通末	〃	信州	佐久

追善供養の旅でもありました。

② 幕府のあった鎌倉は当時、僧達が成功し、名声を得る為の新天地でした。全国を巡り、布教してきた一遍は、名声が欲しいわけではないが、今後の布教活動の行方を鎌倉に入ることで占う目的で鎌倉に入ろうとしました。巨福呂坂の木戸で北条時宗の護衛に阻止され、外に出た一遍一行でしたがなんと、鎌倉中の人々が集まり、念仏を受け、供養を受けました。

3、踊り念仏

この「踊り念仏」が一番、時宗独特で有名な行儀だと思います。ただ、この踊り念仏は平安時代中期、「空也上人」が瓢箪、鉢をたたき鉦を鳴らし念仏を唱え踊ったのがはじめとされています。そして、一遍上人は「空也は我が先達なり」と称えています。どのみち捨てることのできない煩悩であり、情念（心にわく感情や心におこる思念）であるなら、むしろそれを燃えつくすほど燃え上がらせ、発散させてしまうのが正しい道ではないか、踊り念仏がそれである。単純なリズム、メロデイの反復で興奮し、恍惚、トランス状態に陥る“踊躍歓喜”（ゆやくかんぎ）と言い、心が仏と一つになる状態です。思うに、当時は

空也上人

蒙古来襲、自然災害、飢餓、不安の中で民衆は救いを求めて、不安を忘れ何かに熱中したい気持ちが踊りとなったのでは。また、一説では「盆踊り」のルーツとも言われています。踊り念仏を現代風に考えれば、熱狂的なコンサート、ライブの様な盛り上がりかもしれません。（批判はあったようですが）

参考資料

捨聖　一遍　・・・・・・・今井 雅晴　　吉川弘文館
一遍　読み解き辞典　・・長島 尚道 他　　柏書房
絵本　一遍さん　・・・・足立 威男　　緑地社刊
その他

次回は一遍上人の生涯について掲載の予定です。

最　近　の　活　動

日　付	場　所	内　容	参 加 者
９月　２日	小鮎公民館	創立 20 周年記念誌編集委員会#3	会員　６名
９月　９日	アミューあつぎ	定　例　会	会員　26 名
９月　11 日	恩曽川沿い	企画ガイド下見 「恩曽川ハイキング」	会員　10 名
９月　12 日	睦合西公民館	創立 20 周年記念誌編集委員会#4	会員　５名
９月　23 日	東丹沢七沢 観光案内所	企画ガイドガイド資料作成 「恩曽川ハイキング」	会員　６名
９月　24 日	小鮎公民館	創立 20 周年記念誌編集委員会#5	会員　６名
９月　30 日	恩曽川沿い	企画ガイド 「恩曽川ハイキング（秋を探して）」	会員　８名
10 月　２日	厚木市内	依頼ガイド 「荻野山中陣屋跡～飯山観音」	会員　２名
10 月　４日	相川公民館	編集会議	会員　３名

編 集 後 記

今年度初めての企画ガイドが開催できました。一般参加者は少なかったのですが、会員がそれぞれ特徴のあるガイドを行った事、訪問先の寺院・神社の方から色々と親切にしていただいた事で、充実した楽しいハイキングが出来ました。現役大学生 ２ 名が会員に加わりました。当会の活動に対して、新しい風を吹き込んでくれるよう期待しています。

編集委員　阿部 啓冊　小林 直樹　澤田 正弘